

Kate研レポート

福岡県家庭教師ネットワークでは、所属多数のスーパー家庭教師が生徒さんの学力向上に努めるため日々努力、研鑽を行っています。

『KATEKYO研究会』通称:『Kate研』は、KATEKYOグループの教師研修制度の一環として、教師が教師を互いにスキルアップを図る場です。

今回は、4月に北九州事務局にて行われた、Kate研についてご紹介します。

4月度 kate 研では以下の議題について話し合いが行われました。



議題

1. 20年度入試総括
2. 内申点の仕組みと、入試での合否状況について
3. 英語指導に関する事例発表

1. 20年度入試総括



入試総括では、まず教務部より高校入試・大学入試における倍率や全体の動向について説明し、その後先生ごとの個別の受験結果や取り組みを話し合います。今年度入試では、大学受験でのセンター試験平均点上昇による、

難関大学の一層の難化や二次試験対策についてが話し合われました。

高校入試についても、平均点が下がる見通しとなり、厳しい受験だったことが先生方のお話からも伝わってきて、活気のある会議となりました。

2. 内申点の仕組みと、入試での合否状況について



次の内申点の仕組みと合否状況については、北九州市における内申点の決定の仕組みや、評価の方法について情報交換を行い、「内申点は狙って取れる」ことを、皆再確認しました。どうやれば、ちゃんと通知表の点数が上がるのか気になる方は、katekyoの先生の指導を受けてみてくださいね！

入試での合否状況では、推薦入試での要求される内申点が上がっていること、競争率・合格率から考えて、推薦入試は「おトクな」入試ではないことがわかりました。やはりどの先生方も、「入学してからが大変なので、どちらに転んでも一般入試の準備は必要だ」とお話されていました。



3. 英語指導に関する事例発表



後半は、北九州事務局が誇るスーパー家庭教師・中司先生による、指導事例の発表です。

先生は、今年度の指導における生徒の個人差や学力差を類型に分け、国語力の有無、リスニング力の有無などによって、どのような指導が有効であったか、を説明しました。

これについても、英語が専門でない先生も加わって指導上うまくいかなかった例の紹介や、現在担当している生徒での問題点などを先生方が率直に出し合い、非常に建設的な質疑応答が行われました。

家庭教師ネットワークでは日頃の指導報告や、kate研を通じて、多くの教師を育てています。その中で、教師個人の個性が発揮され、生徒の指導に活かされていきます。こうした、他に類を見ない家庭学習指導のプロと言える『スーパー家庭教師』を多数育成していきますので、今後ご期待ください。